

2025 年 6 月 26 日

学校法人三幸学園
東京ウェディング&ブライダル専門学校
校長 高橋 斉 殿

学校関係者評価委員会
委員長 船田 萌々

学校関係者評価委員会実施報告

2024 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ①梶 奏音（株式会社八芳園）
- ②亀井 晴哉（株式会社リブラブラフ）
- ③湯原 妃那（株式会社ベスト・アニバーサリー）
- ④野溝 優美（株式会社フォーシスアンドカンパニー）
- ⑤池田 恵都（株式会社 Sreno）
- ⑥松永 光利（飛鳥未来高等学校池袋キャンパス、飛鳥未来きずな高等学校池袋キャンパス 責任者）
- ⑦海野 敏（飛鳥未来高等学校 足立キャンパス 責任者、高校教育推進室 マネージャー）
- ⑧船田 萌々（第 9 期卒業生）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2025 年 6 月 26 日（会場 東京ウェディング&ブライダル専門学校 303 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2024 年度 学校法人 三幸学園 東京ウェディング&ブライダル専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 小平 香織

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 船田 萌々

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ウェディング分野の学校として「最幸の結婚式を通じて、日本をそして世界の家族を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ウェディング分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、社会に貢献する人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

(1) 重点施策

上記教育目標を実現する為に、以下三点に力を入れた。

■環境設定の徹底

■なぜこの授業があるのか・この指導をしているのかという理由と目的をはっきりと伝える

■生徒に合わせて寄り添う対応

その結果として、退学率の低減・行事出席率の向上を目指した。

(2) 振り返り

退学率 5.71%(前年 7.64% / 目標 5.5%)

全行事出席率 1年生平均 91%(目標 95%) ・ 2年生平均 91%(目標 95%)

環境設定については、会議での発信を元にメリハリのある授業展開に尽力した。授業時の整理整頓できている状態を可視化・発信をしたことで、全体的に学びやすい環境を整えることができた。

また、「なぜ」を伝えることを意識して運営し、授業アンケートの向上に繋げることができたが、補講者・単位不良者が増えた結果となってしまった為、新たな課題が明確になった。

生徒に寄り添う対応が実現できたことで、昨年度より退学率を低減することができた。目標数値には至らなかったが、対応方法については次年度継続し、学びやすい環境を整えていく。

② 学校関係者評価委員会コメント

・結婚式場内のサロンで勤務しているが、取引先によって服装や髪色の基準が異なる。学生時代に就職ガイダンスで服装や身だしなみについて厳しく指導を受けた経験があり、規則を守る力は学校生活を通じて身についた。ブライダル業界では、面接時に身だしなみを厳しく見る傾向があるため、在学中から服装やマナーに関する継続的な指導が重要である。また、業界の基準や現場の実態に即した教育内容への改善も必要である。（池田委員：ブライダルヘアメイク&ドレス科）

・接客時の身だしなみや環境の美化（ゴミ拾いや整理整頓）は非常に重要であると会社から指導を受けたが、在学中にすでに教わっていたため、入社直後から自然と実践できた。また、「お客様の目に触れない場所でも整理整頓ができない人は、お客様の目の前でもできない」という教えが、現場での意識に深く結びついていると実感している。そのため、環境設定の徹底については、引き続き力を入れるべきだと感じる。（梶委員：ウェディングプランナー科）

・通信制高校では、掃除の意義を理解させるため、命令口調ではなく「なぜ行うのか」を丁寧に伝えている。登校頻度やメンタル面に配慮し、主体的に取り組めるよう工夫が必要である。学校では掃除を通じて社会性や自己管理能力を育む指導の工夫が求められる。（松永委員：ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク&ドレス科）

・東京ウェディング&ブライダル専門学校に入学をしてから共用物を使った後に元の場所へ戻る習慣が身につき、現在の職場でも役立っている。授業内でも指導はあったが教師の声かけだけでは限界があり、生徒同士が意識して声を掛け合うことが、習慣づけにはより効果的だと感じている。（野溝委員：ブライダルヘアメイク&ドレス科）

・授業の開始時間が曜日ごとに異なっているため時間管理力が身につき、就職後のフレックスタイム制度にも活かせていると感じている。その一方で、クラス内ではモチベーションの差が見られ、学習意欲のばらつきが課題であった。（船田委員：ウェディングプランナー科）

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

世の中の課題や傾向に合わせた将来構想を考えて取り組んではいるものの、業界が求める人物像とのギャップがある為、まだできることはあると考える。

② 今後の改善方策

企業様に足を運び、本校や学生の特徴を理解してもらう場の数を増やしていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・東京ウェディング＆ブライダル専門学校では専門知識をしっかり学べるため、就職時の安心感につながる。また、クラスやチームでの行事を通じて協働力が養われ、業務もスムーズに進められた。ウェディング業界では向上心と素直さが重要であり、仮配属で全セクションのつながりを理解しながら意欲的に取り組む姿勢が求められるため、在学中にその力を養うことができると良いのではないかと。（梶委員：ウェディングプランナー科）

・ヘアメイク業界では専門学校出身が多く、専門学校で基礎知識を学ぶことで良いスタートが切れる。ウェディング業界は夢のある仕事である一方、勤務形態や給与面、業界の衰退傾向など現実的な課題も多くある。そのため、魅力だけでなく厳しさも伝えることが重要である。また、業界へのハードルを下げるために、年齢の近い先輩から就職活動のアドバイスを受ける機会があると良いと考えられる。（池田委員：ブライダルヘアメイク＆ドレス科）

・ウェディング分野はビューティー分野に比べて、商業実務的で堅いイメージがある。また、職種の具体的なイメージが持たれにくいと、希望する学生には積極的にオープンキャンパスへの参加を促している。東京ウェディング＆ブライダル専門学校では別室授業や同時双方向・オンデマンド授業などを導入しており、高校生にも前向きな支援ができていると感じている。（松永委員：ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク＆ドレス科）

・通信制高校の学生は勉強が苦手だが「手に職をつけて自立したい」と考えるため、大学と比較して専門学校の方が人気が高い。一方で自由度の高い大学も増えており、大学進学を希望する学生も少しずつ増加している。ウェディング分野に関しては、家庭環境や経済的な事情から「結婚」に対して前向きなイメージを持ってない学生も一定数いる可能性がある。また、業界自体を知らない学生が多いことも課題。ブライダル業界は一部の学生には強く響くものの、高校生全体の中では関心を持つ層に限られているのが現状である。（海野委員：ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク＆ドレス科）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・情報システム化等による業務効率化。

授業データの蓄積は改善されており、業務効率に繋げることができている。

しかしながら、学生の個人情報・現在の状況等、必要なデータが1か所に集約されていなかった為、どれを見ることが正しいのか等に時間がかかってしまっていた。

② 今後の改善方策

情報資料を一元化し、「ここを見れば全てが分かる」というデータ作成を実施する。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・高校教育においては、生徒一人につき一台のタブレット端末を配布し、ICTを活用した授業が行われている。こうした環境の中で、現在の高校生は意思を持っているものの、表現することが苦手な傾向があるため、自己表現の機会を積極的に提供することが重要である。また、表現する力を育むことは生徒の主体性やコミュニケーション能力の向上にもつながるため、教育現場での工夫が求められると感じている。（松永委員：ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク&ドレス科）

・高校ではデジタル化が進み、メッセージによるやり取りが主流となっている。生徒の考えを引き出すには教員の工夫が必要であり、通信制高校では特にメッセージが有効。コミュニケーション能力を過度に求めると登校意欲に影響するため、共同作業を通じた表現の機会を設けている。職人気質の生徒が多く、作業系の職種には適性がある。情報過多の中で思考力が不足しており、情報収集力を高める指導が行われている。（海野委員：ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク&ドレス科）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

研修を適宜行っているが、レベル別やタイプ別等の教員に合った研修を検討していく必要がある。

② 今後の改善方策

今何が誰に必要なかを検討し、適宜実施をしていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・ヘアメイクを学びたいという強い意志で入学し、授業には積極的に取り組んだ。一方で、メールや英会話などの授業は必要性は理解しつつも、技術職志望のため目的ややりがいを見出しにくかった。コロナ禍で授業運営が難しい中でも、分かりやすく教えてもらえたことで多くを学べた。授業導入時に「どの場面で活用できるか」という具体的なエピソードがあると、学生のイメージが膨らみ、モチベーション向上につながると感じている。（池田委員：ブライダルヘアメイク&ドレス科）

- ・ウェディングプロデュースやパソコン演習などの実践的な授業が現場で役立ち、効率的に業務をこなせることで社会に出てから得をしたと感じている。資格が不要な職種だからこそ、専門学校での学びが大学生との差別化となり、自信につながった。2 年次の実技も活かしているが、1 年次に繰り返し教わった基礎があるかないかで、入社直後の忙しい時期の余裕に差が出ることを、人事の立場からも実感している。（船田委員：ウェディングプランナー科）
- ・元ドレススタイリストの先生の経験談やトーク例が非常に役立っており、現在も接客で参考にしている。教科書の内容よりも、授業中に先生方がお話しされる現場での経験談の方が印象に残り、実践に活かされているため、授業開始の導入として取り入れていくと良いのではないかと感じる。（野溝委員：ブライダルヘアメイク&ドレス科）
- ・ブライダルコレクションの実行委員として活動したことが、最も成長を感じた経験だった。初めて人をまとめる立場となり困難も多かったが、最後まで逃げずにやり切ったことで現場でも妥協せずに接客できる力が身についた。行事への教員の関わり方については、学生だけでも多くのことができると感じており、話し合いを通じて自分達で問題を解決したときの達成感から適度な距離感が重要だと実感している。（野溝委員：ブライダルヘアメイク&ドレス科）

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

・資格(免許)取得率の向上

オンデマンド授業の導入により資格取得率が下がった現状があり、資格取得に向けての対策が必要である。

・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価

連携が円滑に取れている企業様を除き、全ての卒業生の評価を把握できていない。

② 今後の改善方策

・資格(免許)取得率の向上

オンデマンドの発信方法や管理の見直しを実施。

また資格取得の意識を上げられるように、検定取得率の可視化・動機付けの見直しを検討。

・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価

企業様との関わりを強化し、卒業生の現状把握に努める。

また 2023 年度卒業生の同窓会を 9 月に実施。卒業生同士・卒業生と教員が関われる場を作ることで、現状把握をしていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・高校卒業後の支援や同窓会の活動がまだ十分に行われておらず、卒業生からの近況報告はあるものの、連携がうまく取れていない状況である。（松永委員：ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク&ドレス科）

・卒業生としての恩返しとして、三幸学園の行事を写真に残すことで、自分だからこそ伝えられる価値を届けたいと考えている。（湯原委員：ウェディングプランナー科）

・在校生を支援したいという思いが強く、卒業生として伝えられることも多いため、就職イベントなどに積極的に参加したいと考えている。（池田委員：ブライダルヘアメイク&ドレス科）

・打ち合わせは主に対面で行っているが、海外や遠方のお客様にはオンラインで対応することもある。独自システムを活用し、メッセージや見積もりのやりとりなど ICT 化が進んでいる状況である。スマートフォンで情報をすぐに調べられる時代となり、業界のトレンドを把握するためにも自己解決力が求められている。ただし、現場の声を知ると

めには、先輩に直接聞くことも有効だと感じている。(池田委員:ブライダルヘアメイク&ドレス科)

・ウェディングプロデューサーの目線だと自分で調べる事も大切になるが、お客様の事を一番に考えると現場経験のある先輩に相談をする方が、今のトレンドだけではなくそのお客様にあった提案ができるのではないかと考えられる。自分で調べて得る情報と先輩から聞いて得る情報を明確化する力を在学中に学ぶことができると良いのではないかと感じる。(梶委員:ウェディングプランナー科)

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

・卒業生への支援体制

卒業生用の公式 LINE を設定している為、繋がりを持てるようにはしているが、支援まではできていない現状がある。元担任に連絡・相談をしている卒業生も見受けられるが制度化まではできていない。

② 今後の改善方策

同窓会実施時に、卒業生が求めていると期待していることをヒアリングし、把握・検討を進めていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・同窓会を全卒業生で行うことに対して知らない人が多く抵抗を感じるため、卒業年度ごとの開催の方が集まりやすいと感じる。先生と生徒の距離が近く仲が良いことが魅力であり、集まって話せる機会があるだけでもありがたいと考えている。（梶委員：ウェディングプランナー科）

・人生の先輩として結婚などライフステージの変化に関するアドバイスがあると、非常に心強い存在となる。転職支援については「ある方がありがたい」との意見があり、退職する同級生の多くが計画性なく退職をする傾向があるため、支援の必要性を感じている。また、転職活動では業界の選択肢が広がる一方で、何をすればよいか分からず不安を抱えるケースも多い。転職エージェントには営業的な印象があり寄り添いが感じられないため、先生のようにフランクに相談できる相手の存在が望まれている。（船田委員：ウェディングプランナー科）

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

インターンシップを選択する生徒の割合が低下していることから、現場経験が少なく、理想と現実にギャップが生まれている可能性があることが課題である。

厳しさや継続の必要性を強く伝えている現状がある為、必要性や伝え方を検討する必要がある。

② 今後の改善方策

現場経験が採用や就職にどう繋がっていくのかを更に重点的に伝えた上で、インターンシップを選択する学生を増やしていく。また、その上で即戦力になる生徒を育成していく。

③ 特記事項

- ・海外研修制度あり
- ・インターンシップは選択科目として運営

④ 学校関係者評価委員会コメント

・インターンシップでは結婚式の現場に携われる楽しさから継続的に参加でき、主体的な行動や演出方法、現場での応用力を学ぶことができた。参加者同士の励まし合いによりチームワークも育まれ、入社後も良い関係が続いている。学生がインターンシップ先を選ぶ際は、学べる内容や将来へのつながりを明確にすることが重要であると考えられる。（梶委員：ウェディングプランナー科）

・インターンシップを通じてチームで働く魅力や多様な職種を知る機会を得た。また、年上の社員とのコミュニケーションを通じて社会人としての対応力も養うことができた。インターンシップを選択していた学生が入社後に成長することで、モチベーションの高い人材が次世代を教育するという好循環が生まれている。（亀井委員：ウェディングプランナー科）

・インターンシップを通じて現場の状況やスタッフの裏側の努力を体感できた。また、信頼していたプランナーに就職活動の相談ができたことで、スムーズに選考を進めることができた。インターンシップ先の選び方に悩む学生へのアプローチとしては「どんなプランナーになりたいか」という明確な目標があると決めやすいのではないかと感じる。（船田委員：ウェディングプランナー科）

・インターンシップ生を受け入れる立場になり、大学生・専門学生を問わず学生の多くがコミュニケーションの距離感が近く、少し戸惑いを感じる。親しみやすさは良い面もあるが、場面に応じた距離感の取り方を在学中に学ぶことができるかという点ではないか。（船田委員：ウェディングプランナー科）

・高校生の多くは新しい環境に対して不安や緊張を感じやすい傾向がある。先輩や周囲の人に対して素直な態度を取り、挨拶や感謝の言葉を忘れずに伝えることで、環境への適応がスムーズできると考えられる。（松永委員：ウェディングプランナー科・ブライダルヘアメイク&ドレス科）

(7)学生 of 受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

特に問題なし

② 今後の改善方策

今後も適切な運営を継続していく

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特に問題なし

② 今後の改善方策

今後も適切な運営を継続していく

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・生徒のボランティア活動奨励・支援

参加をすることでの成長や意味は伝えているが、支援までには至っていない。

② 今後の改善方策

姉妹校と連携をして生徒の学びをアウトプットしていける場を検討。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

・留学生の受け入れ体制

25 年度入学にて 2 名受け入れをしているものの、留学生制度の理解や就職活動の周知や取り組みを具体的にしてい切れていない現状である。

② 今後の改善方策

留学生向けのツールを作成し実働していく予定。

③ 特記事項

2023 年度にウェディングプランナー科が留学生キャリア形成促進プログラムの認定を受けた

④ 学校関係者評価委員会コメント

・現在、ウェディングプランナーやドレススタイリストなどの職種には留学生社員はいないが、英語が話せるため、案内担当として活躍している社員はいる。（梶委員:ウェディングプランナー科）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

2024 年度の振り返りを元に多くの意見をいただき、改めて「意図・なぜ必要かを伝えること」「授業内容はもちろん、教職員の経験や今の流行を伝えること」「今の社会が必要としているということを伝えること」「継続的に伝え続けていくこと」が重要であると認識をした。既に 2025 年度の取り組み・目標として設定をしている為、継続・改善をしていく。